



No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	みなはし歌声広場	みなはし歌声広場プロジェクト	平成29年7月にスタートした本事業は、軽体操に加え歌唱、そして踊りも行うという企画の活動で、コロナ禍前は高齢者を中心に平均54名(最大63名)の参加者があった。 その後、コロナ再開後もしばらく入場制限が続き、拡大の見通しが立たなかったことから、諸団体に顔を出す中で知人・友人を通じて集まって来られる方々に重点的にチラシ配布を行なった結果、近隣の周辺地区からの参加もあり、参加者数が回復してきた。 しかしながら、多くが高齢者であることから体調管理問題、免許証返還等もあり、現状の充実した企画のまま継続して行うための人員の安定した確保が難しく、事業内容の見直しの中でも、本事業の継続を望む意見が多く、内容の見直しとともに本交付金の活用の申請に至った。 参加者アンケートによると、体を動かしながら発声することで会場に一体感が生まれ、“生きる力が湧いてくる”という感想が多いように、地域市民の福祉向上や幸福度を上げることが、清新地区の地域活性化はもとより、市益に叶うことであり、強いてはシビックプライドの醸成につながるものと思っている。	・自治会員に限らず、広く友人・知人が音楽と軽体操を通じて参加できる場を設け、この街でいつまでも仲良く、楽しく、健康で生きがいのある人生を送るための一助とする。 ・併せて、周辺地域住民との交流を積極的に促すことで住民同士のつながりによる各種相乗効果をねらう。 ・また、自治会未加入者が本事業に参加するために自治会館へ足を運ぶことで、友人・知人等への会話を通じて自治会加入のきっかけにする。	・月1回、生演奏による歌と軽体操を行う「みなはし歌声広場」を開催。 ・参加者へは自前作成した歌詞集と借用した歌詞集(300余曲掲載を無償提供)を使い、その中から毎月17曲と歌詞集以外の特別曲(リクエスト含む)を加えた合計18曲で合唱する。 ・「みなはし歌声広場」の最大の特徴は毎回必ず「中央区の歌」と「相模原市民の歌」の曲を交互(奇数月と偶数月)に採用しており、誰もが歌えるのは、市内にある他の団体にはない強みである。 ・参加者は登録者名簿に記入していただいている。記載事項は、名前、住所、連絡先、生年月日等の基本情報のほか、ライン加入、緊急連絡先、自治会加入の有無なども確認している。 ・清新地区社会福祉協議会が運営している「清新カフェ」は、歩いて行ける地域交流の憩いの場所となっており、月に複数回参加している。清新カフェは当該事業の一つの付加価値となる有機的な地域資源であり、引き続き連携強化に力を入れていきたいが、趣味の世界でもあるので、和を壊してはいけないので、積極的には紹介がしにくいことも課題のひとつである。 ・現在、参加している地域のイベントのだけでなく、開催場所や日程次第で歌える環境さえあれば披露する場として活用していきたい。	R7.6.23	163,200	46,000	46,000
2	KidsFine	子育て世代応援事業プロジェクト	核家族化が進む地域の中で、子育てに悩みを抱えている方が孤立しないための場所を提供し、支援を行うための拠点をつくり、運営する。 具体的には、子どもセンターなどにも足を運べない孤立しがちな親子に、寄り添って相談できる場所が少なく活動の中でもっと子どもが2か月、5か月の小さい頃に話を聞いて欲しかったなどの声がある中、行政の子育て相談窓口の役割を補完し、より暮らしやすく、住みやすい地域となるような活動を行う。	・清新地区における子育て世代の方が、孤立しないで笑顔で過ごせるお手伝いをしていきたい。 ・リラックスできる空間の中で、子育て中の親子が交流する場の提供をしていく。 ・自治会や地域団体とも更に協力し、事業を進めていきたい。	①子どもや子育て家庭等のニーズに応じた育児相談 子どもや子育て家庭が抱える様々な場面での悩み等に気軽に相談する場所また必要な方には福祉サービスや行政につなげていける案内所の役割を果たす ②育児不安の軽減 育児で孤立することなく楽しんで子育てができるよう、保護者同士で気軽に集い育児の悩みや不安を 共有・共感できる情報交換の場を提供する ③子どもの遊び場&居場所作り 乳幼児期の親子の遊び場の充実を図り、保育経験を活かしたおうち時間のあそびを提供する	R7.6.24	285,000	240,000	224,000
3	清新防災フェス実行委員会	清新防災フェス	令和7年に入ってから日本では大きな地震が続いており、清新地区においても常にも大規模災害が発生する危険性があることから、生活するうえで地域住民一人ひとりが「自助」「共助」の意識を常に持つことが大切である。 毎年、自治会ごとの防災訓練や避難所開設訓練、黄色い小旗掲出訓練など、地域における防災活動を実施しているが、防災に関する啓発活動をさらに行うべきであると感じており、防災の重要性を広く周知し、「自助」「共助」の必要性に対する地域住民の認識を高めていく必要がある。	地域住民が防災に興味を持てるような体験型の「防災フェスティバル」を開催することで、地域住民の防災意識の向上、住民同士の連携・協力のきっかけづくり、地域防災の新たな担い手の確保に繋げる	日時:令和7年11月16日(日) 会場:清新小学校 校庭および体育館(雨天時は体育館のみ) 実施内容: 消防車両等の展示、子ども用防火衣等の試着体験、起震車体験、煙体験、消火体験、企業ブース、キッチンカーによる軽食販売、相模原市消防団による放水実演、避難所体験コーナー、中央区ガチャブース、顔はめパネル、心肺蘇生体験 対象者:清新地区住民	R7.10.17	571,000	521,000	521,000
4	清新地区多世代eスポーツクラブ	eスポーツでつむぐ世代の絆 ～教え教えられ、みんなが主役～	1 希薄化する世代間交流とコミュニティの弱体化 (1)交流の機会不足:核家族化や共働きの増加、習い事などで、昔のように地域全体で子どもを見守る機会や、義務教育終了後に途絶える多世代交流が減少している。 (2)地域コミュニティ機能の低下:住民同士の「顔が見える関係」が希薄化し、何かあった時の相互扶助(助け合い)の機能が低下している。 2 高齢者の社会参加と健康寿命の課題 (1)孤立・閉じこもり:高齢者の中には、退職や配偶者との死別などをきっかけに社会との接点を失い、家に閉じこもりがちになる方が少なくなく、孤独死やフレイル(虚弱)のリスクが高まっている。 (2)介護予防・認知機能の維持:介護予防の観点から、単調なレクリエーションではなく、指先を使い、脳を活性化させ、集中力や判断力を要する活動の必要性が高まっているが、適度なコンテンツが不足している。 3 若者の地域活動への関心の低さ (1)地域活動の担い手不足:伝統的な地域活動は、若者にとって魅力的ではないと感じられがちで、若者の地域離れやイベントの担い手不足が深刻化している。 (2)地域への愛着の希薄化:地域イベントへの参加経験が少ない若者は、地元に対する愛着や、将来的に地域を支えようという意識が育ちにくい傾向にある。	1 世代の壁を越えた強固な「地域コミュニティの再構築」 eスポーツを共通言語とすることで、年齢や経験の違いによる心理的な壁を取り払い、地域における人々のつながりを持続的に強化。 2 高齢者の「健康増進」と「生きがいの創出」 eスポーツを楽しみながら参加できる活動として定着させ、高齢者の社会参加と健康寿命の延伸を促進。 3 若者の「地域参画」意識の醸成と「地域ブランド」の向上 イベントの企画・運営に若者(子ども、学生)が積極的に関わる機会を創出し、地域に対する愛着と貢献意欲を育むとともに、地域の魅力を高める。	1 ゲームコンテンツの「マイクラフト」を使用し地域のこども達に新しい発見を体験してもらう。 2 ゲームコンテンツの「太鼓の達人」を使用し地域の高齢者の方々とこども達で対戦してもらう。 ※ 1で多世代の顔合わせをし、2で交流を深める。 イベント開催日時:令和8年2月28日(土)10:00～12:00 イベント開催場所:さがみはらオレンジサポートセンター(相模原市中央区清新5-3-1)	R8.1.21	339,000	328,000	328,000
							1,358,200	1,135,000	1,119,000